

### 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1070501373		
法人名	医療法人愛全会		
事業所名	グループホームひだまりの丘		
所在地	〒005-0824 札幌市南区南の沢4条1丁目7-10		
自己評価作成日	令和元年8月5日	評価結果市町村受理日	令和元年10月2日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然豊かな環境の中、大学、高校を目の前に活気あふれる地域に密着しており、町内会との連携を密に図っております。  
 温かい家庭的な雰囲気の中、入居者様の力を発揮出来るように個別ケアに重点を置き、支援をさせて頂いております。  
 地域の方々による支援を頂き、積極的にボランティアを受け入れております。ロッキー先生の音楽会、生け花教室などアクティビティの時間を取り入れております。  
 スタッフは認知症に関する知識を習得出来るよう、内部・外部研修に積極的に参加しております。  
 ご家族様とは来訪時に生活の様子をお伝えしたり、お手紙により密に連絡を取り、ご意向に添って頂けるよう、より良い関係作りを図っております。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2016_02_2_kihon=true&amp;JigyosyoCd=0170501373-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2016_02_2_kihon=true&amp;JigyosyoCd=0170501373-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401
訪問調査日	令和元年9月12日

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所はバス停から至近距離にあり、家族の方々が来訪しやすい環境にある。周辺は、札幌市のラベンダー発祥の地で、町内会、大学でもラベンダーが群生しており、色や香りが楽しめる。住宅街、コンビニ、中・高・大学等が建ち並んでいる。地域とは、開設時から理解と協力が得られている。事業所は、食事にも力を入れており、食器や味、彩り、盛りつけにも配慮がある。家族参加型の外食ツアー、会席弁当、お寿司の日、秋の御膳、新入居者歓迎昼食会等を行っている。車椅子の利用者も、食卓椅子に移乗して職員と共に食卓を囲んでいる。合同の夏祭りには屋台を設け、たこ焼き、宝引き、輪投げやボランティアによるギターの弾き語り等を楽しんでいる様子が、各々のユニット便りに載っている。本体の愛全病院の理学療法士であるリハビリ担当職員が、介護業務を行いながら身体機能維持や向上に努めているなど、丁寧なケアが行われている。

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員の目の届く所に掲げ共有している。	ユニット毎に、利用者が地域の中でその人らしく暮らせる支援を謳った理念を策定し、要所に掲示している。入社時に理念の意義を説明するなど、職員の共通認識の下、ケアサービスに臨んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事や季節ごとの清掃や草木の手入れなど地域で取り組んでいる様々なことに参加し交流を行なっている。	開設時から町内会の理解が得られ、相互の行事で交流がある。職場体験で来訪の中学生の吹奏楽を聴いたり、近くの大学の学園祭見物では学生の協力が得られている。ボランティアによるギターの弾き語りや、生け花教室も行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症介護実践者研修やリーダー研修、福祉専門学校や看護学校の実習を積極的に受け入れている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に計画的に開催し、サービス提供の内容報告を行うとともに、地域やご家族様からの意見交換を行う場や勉強会を通して理解を深める場として活用している。	会議は、町内会役員、家族、地域包括職員、法人関係者の出席の下、定期的で開催している。活動状況や事故、苦情報告後に、出席者から意見や情報が寄せられ、運営の充実に活かしている。認知症についての勉強会も行われている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の依頼により認知症実践者研修の実習受け入れを行なっている。また地域包括センターとの連携も密に行っている。	運営上の案件等は法人役員が関わっているが、職員は市のグループホーム連絡会に出席し、研修会での学びや情報が得られている。運営推進会議や実地指導、集団指導に於いても、各担当者からの助言や意見を運営やケアに取り入れている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所では「身体的拘束等適正化委員会」を年に4回の会議及び研修を行なっている。職員は内部、外部研修で身体拘束について学び、行為を正しく理解している。日々のケアでは行っていない。玄関にはセンサーチャイムが取り付けられ、施錠しない工夫がなされている。	身体拘束等適正化については、開設当初から取り組んでいる。年4回の適正化委員会と研修会により、さらに職員の理解が深まり、これまで以上に意識統一したケアに努め、職員間でも注意喚起を促している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部、外部の勉強会に参加し、虐待のないケアの実践を徹底している。また、身体的拘束等適正化委員会を立ち上げ、年2回(6月、1月)事業所として開催し、取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修を通しての資料を全員で学び、必要となった場合は活用できるよう支援を行なっています。また運営推進会議において、成年後見人制度を学ぶ機会を設けております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に契約書をもとに重要事項を説明し同意を得ている。またグループホームでの生活が継続できなくなった場合はご家族様と相談、納得して頂き不安がないよう、医療機関等の紹介を行なっている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様に計画書説明時や来訪時に会話出来る機会を設けている。年1回、グループホーム全体でアンケート調査を行い意見要望を頂いている。また、運営推進会議への出席を呼びかけ、意見を出し易い環境作りをしている。また、入居者様の希望を考慮し、夏は近所を散歩する等、活動を多く取り入れ、個別に合わせたレクリエーションを行った。	年1回法人主催の家族アンケートや、家族来訪時、電話等で出された意見は、速やかに職員間で話し合い、改善に繋げている。各ユニットは、「ありんこメール」「すずむしの家たより」「ほたる通信」で写真とコメントを載せ、利用者の日常生活を伝えている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回法人内で人事考課が実地され、職員の意見を聞いている。働きやすい環境にするよう職員も意見を言える機会がある。	法人役員は、運営推進会議等の機会を捉え、事業所の実情を把握している。職員は、日々の業務や会議、年2回の人事考課時に意見を表しており、運営やケアに反映している。外部研修の参加や希望休にも応えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考課時に自己評価表を個々に作成し、各自が向上心を持って働くことができるよう意見を取り入れ、個人面談で状況把握をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は法人内外の研修に計画的に参加している。部署外の研修にも参加出来るよう情報提供を行なっている。また、委員会を組織し、毎月、事例検討や研修企画をおこなっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	南区管理者連絡会議等で管理者同士の交流を図っている。職員については、得た情報をケアカンファレンス等で共有し、ケアに活かしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期の面談において要望等を聞き入れ職員と話し合い安心して暮らせるよう関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前には時間をかけ、お話を伺っている。さらに御家族とは見学後にもう一度面談を行い御家族が求めているサービスがグループホームとして可能なかを確認を行なった上で契約をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	これまで受けていたサービスなど事前に情報収集し、今必要な支援を見極めている。また相談員やグループホーム事業室に検討、相談している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の立場になり介護し、今まで暮らしてきたような環境作りに努めている。また、同じ時間を共有する者として共に支えあう関係作りをしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月のお便りにて情報を提供している。面会時には日常の様子をお伝えし、ホームでの暮らしを知ってもらい家族と共に支えていける関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族ばかりではなく、お友達や昔の同僚などが訪ねて来たり、お手紙のやりとりや電話も取り次ぎを援助し、関係が途切れないように支援している。	面会で訪れる方々を快く迎えている。面会が少ない利用者には「私達がいるよ」と話しかけたり、昔の事を会話に取り入れている。選挙に同行したり、馴染みのファーストフードや甘味処でのティータイムに付き添っている。墓参など、家族の支援も得られている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションやお茶の時間などを設け談話出来るよう場の提供を支援している。お互い悩みを相談したり、聞き役に回ったりしています。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病院にお見舞いに行ったり、退居後も近況報告をしてくださっている。最後まで良き相談相手でありたいと思う。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の関わりを通して一人一人の想いをくみ取るケアを行なっている。本人の気持ちに立って関わる支援を行なっている。	利用者がどのような人生を生きて行きたいのか常に模索しながら、満足に繋がる支援に努めている。2択3択のケアを試み、利用者にとって良い状況をケアプランに反映している。カラオケに行きたい、外出したいとの要望に応えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今まで使っていた馴染みの物を居室に持ってきて頂き、落ち着いて生活出来るよう支援している。また今までの趣味活動も続けられるよう援助している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの心身状態を毎日確認し合い、それぞれ個別に一日の過ごし方を考えている。ご本人が出来ることを把握し、ご本人が負担にならないよう声かけし、一緒に行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月ケアカンファレンスを開催している。課題やケアの方法を職員全員で話し合いモニタリングや計画書作りを行なっている。	家族の要望等をさらに反映させ、転倒防止や残存能力を引き出す運動やレクを目標に掲げており、個々のケアプラン作成時に組み入れている。全職員で評価や課題を分析し、利用者や家族の望む支援になるよう検討している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに基づいた記録を記入している。職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療連携体制をとっており訪問介護ステーションと連携がとれている。主治医はグループホームの生活を支えてくれている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議を通して町内会と日頃から近隣の大学、商店との関わりを大切に、入居者様が地域へ出やすいよう働きかけている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用開始時に本人と家族で相談し、かかりつけ医療機関を決めている。訪問診療を利用されている方は一か月に二回、訪問診療を受けている。	入居時に、要望の医療機関を傾聴している。協力医療機関からは月2回の往診があり、殆どの利用者が受診している。専門医などかかりつけ医への受診は、基本的に家族が同行している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週健康管理相談に訪問看護師が来るので入居者のちょっとした変化や異常がある時は相談を受けられるようになっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は入居者の情報を速やかに提供し、また入院中も情報交換を行い早期退院に努めている。また、入院先のカンファレンスの参加も行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所できちょうを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「重度化した場合における対応に関わる指針」を作成しており、本人や家族に提示し説明している。さらに本人、家族、主治医、職員間で話し合い方針を全員で共有している。	入居時に、利用者や家族に重度化や看取りに向けた指針を説明し、同意を得ている。状態悪化時には、関係者と情報を共有し、現状に即したケアプランに沿って看取り支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故、救急急変時のマニュアルに添い、行動出来るよう、研修やカンファレンスで定期的に確認している。救急救命の講習や緊急対応時に備えての講習に参加し、訓練している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年3回避難訓練を実施している。風水害に備えて立ち退き避難訓練を行った。	ユニットそれぞれを火元にした夜間想定での避難訓練を、年3回行っている。元消防署員である職員の指導と地域住民の協力を得て、利用者を安全に避難誘導が出来るよう、危機意識を高めている。	風水害の避難訓練も行っているが、入浴時や排泄・外出時など様々な場面を想定した避難方法等を、改めて見直しを図り、災害対策強化を考慮しているので、その実行に期待する。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者のプライドや羞恥心に配慮した言葉かけを行ない、個人情報の保管は事務所の決まった場所に保管し、適切に管理している。	法人研修や管理者による助言等で、接遇への正しい理解に努め、実践に繋げている。ミーティング等でも固有名称は使わないなど、プライバシーにも配慮がある。職員間に於いても、人格尊重への意識向上に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望や思いを聞くようにして自己決定出来るよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	時間に合わせて生活するのではなく本人のペースで日々暮らせるよう支援している。さらに起床時間や食事は一人ひとりの体調を考慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行事や外出時、化粧やおしゃれをして頂き、毎月希望者には移動美容室でカット、パーマ、ヘアカラーをしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の下準備やテーブル拭き、食器拭き等、出来る範囲で入居者様と一緒にやっている。テラスで家庭菜園を行ない、トマトピーマンと一緒に収穫し、食べたりして楽しんでいる。	系列の管理栄養士による献立を基本に、利用者と共に食事作業を行い食卓を囲んでいる。木曜日は自主メニューとし、利用者の要望に応え、時にはブレンダーの野菜を利用者と収穫し活用している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が作成した献立表を参考に、バランスの良い食事を提供している。又、個々に合せお粥、ソフト食等状況に合わせて提供している。水分の摂取量を確認し、職員間で共有シェアに活かしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後洗面所誘導し支援している。義歯は就寝前に預かり、洗浄剤につけ衛生管理をしている。歯科受診が必要な場合はご家族様と相談の下、ご本人に合せた受診体勢を取っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄間隔に合せ、トイレ誘導や声かけを行っている。排泄チェック表で記録することにより個々のサイクルを理解し支援に役立っている。	利用者の排泄状態を把握して、介護度の高い利用者もトイレで排泄できるよう努めている。それぞれの状態に応じて、さり気ない声かけや誘導を行うなど、排泄の自立に向けた支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や食物繊維が摂れるようなメニュー作りをし、適度な運動が出来るよう支援している。また、場合によっては主治医の指示の下、下剤調整をしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりの希望に添って入浴が楽しめるよう支援している。拒む場合には無理せず改めて気分の良い時に声かけをしている。	入浴は利用者の意向を尊重しているが、週2回を基本としている。同性介助の要望を受け止め、時にはシャワー浴や清拭の場合もあるが、ゆずなどの入浴剤入りの湯船で、歌ったり職員と会話を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活リズムを尊重した支援を行っている。寝付けない時には職員が話相手になったりホットミルクなどを提供している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容を職員が理解しており、服薬後の症状の変化を観察し記録している。服薬したかどうか最後までしっかり確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーションに参加して皆で一緒に楽しめるよう支援している。また個別に洋裁、ちぎり絵、パズル、ぬり絵など好きなことができる環境作りの支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や近くのコンビニに出掛ける支援をしている。また家族の協力のもとドライブや買い物、食事に出掛けられるよう支援している。	日常的に、住宅街の庭や景勝地のラベンダー畑を眺めながらの散歩、コンビニでの買い物、近くの大学の行事への参加、テラスで日光浴とおやつタイムなどで外気に触れている。外出行事で桜や紅葉巡り、買い物など、家族の協力も得ながら支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	おこずかいは金庫で管理し、職員との買い物等一緒に出掛けた時は、預かっているお金を持参し使用出来るよう支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	コードレスの電話を使用し、家族やお友達への電話のとりつぎを援助している。知人からの手紙もあり、手紙も出したりとしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花々や飾りをリビングや玄関や居室前に飾っている。食事スペース、ソファなどが配置され入居者が自由にくつろげるようになっている。	室内は基より、外回りも清掃が行き届いている。空気清浄機を設置している共用空間には、上質な絵画や置物、調度品があり、さらに至る所に生花が飾られている。季節に因んだ利用者の作品や外出行事の写真等も飾られ、ほのぼのとした雰囲気醸し出している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングで自由に気の合う人と話をしたりお茶を飲んだりしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の時に本人、家族と相談しそれまで使っていた物や、好みの物などを持ってきて頂いている。	生活用品が収納できるスペースがあり、整理整頓がしやすい設えになっている。利用者や家族の思いが反映された調度品や飾り物、家族写真等を持ち込み、利用者にとって安心できる居室作りが行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の状況に合わせて手すりの設置や足元の環境整備を行い利用者にとって安全で使いやすいよう工夫している。		